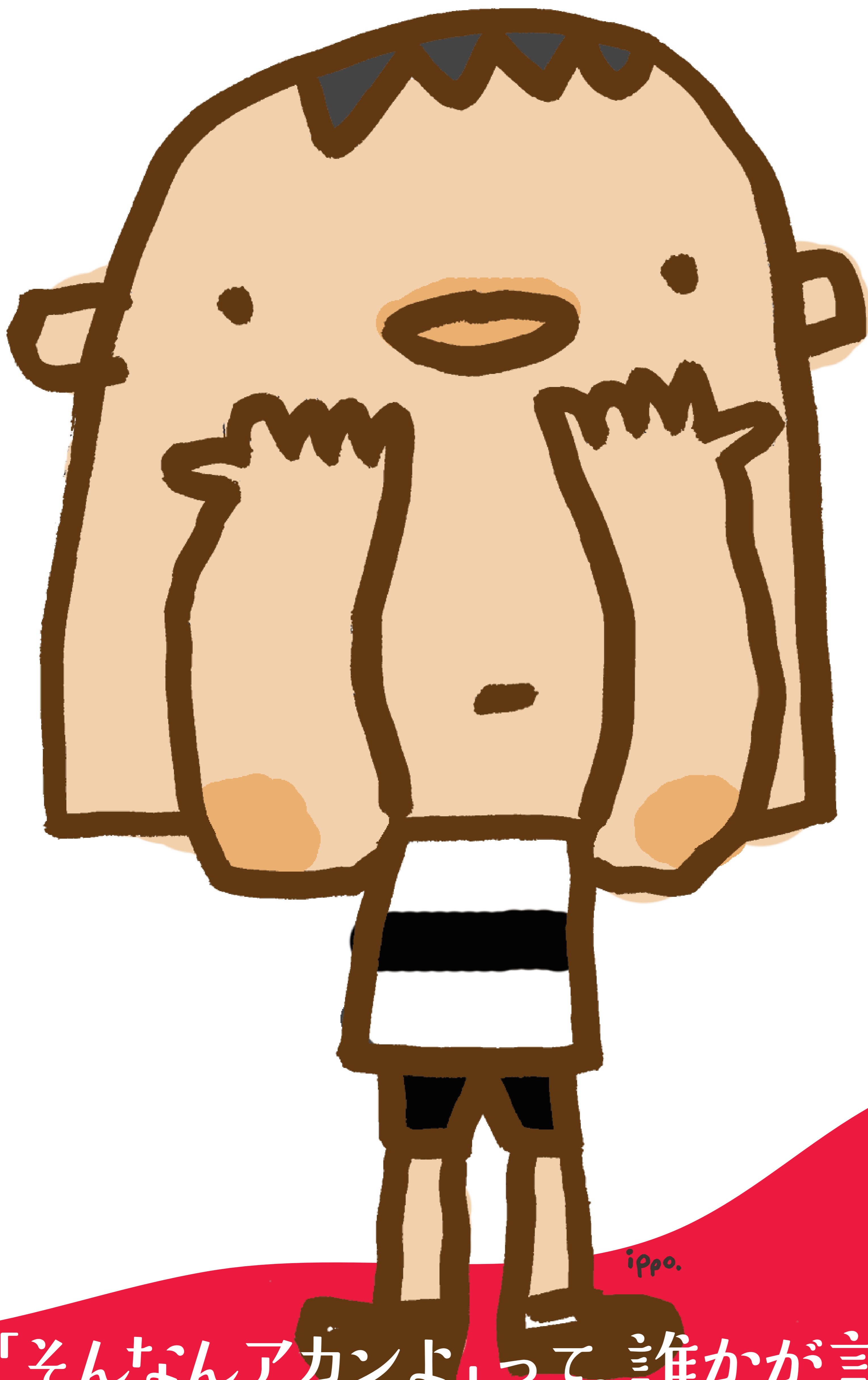


「女みたいだな話し方やなー」って
からかわれた
僕は学校でひと言も
話せなくなっちゃった



ippo.

「そんなんアカンよ」って、誰かが言ってくれたら、
少しは楽だったかも・・・

「女らしいところのある男の子」や「男らしいところのある女の子」は、テレビでも学校でも、日常的に笑いやからかいの的になっています。発言した側は「ちょっとした冗談」のつもりでも、言われた側にとっては辛い経験になることがあります。特に、その子がたまたま性的指向や性自認に悩んでいる子であった場合には、アイデンティティの根源に関わる、深刻な傷つき体験になる恐れがあります。ある調査(*)では、当事者の84%が身近でLGBTに関する冗談やからかいを見聞きしており、68%が実際にいじめや暴力被害を体験しています。しかし、先生や親に相談できた人はわずか数%で、多くの当事者はたった一人でつらい経験を耐えざるをえない状況です。文部科学省では平成27年に通知を出しており、各種の学校に「性的マイノリティとされる児童生徒に対する相談体制等の充実」を求めています。すべての子どもが安心して学校生活を送ることができるよう、周囲の人の理解と配慮が必要です。

(*いのちリスペクト。ホワイトリボン・キャンペーン 2014 調査)

このパネルは、平成28年度 淀川区LGBT支援事業の一環として、大阪市内のLGBT当事者の声を集めて制作したものです。LGBTは、以下の4つの単語の頭文字であり、ここでは性的指向や性自認におけるマイノリティ(少数者)の総称としています。

L レズビアン 同性を好きになる女性 **G** ゲイ 同性を好きになる男性 **B** バイセクシュアル 性別にかかわらず、同性を好きになることもあれば異性を好きになることもある人 **T** トランスジェンダー 出生届の性別とは異なる性別のあり方を望む人

LGBTは人口の5~8%程度とされていますが、学校、職場、地域など、自分の周囲にカミングアウトできない人も多く、見えにくいマイノリティです。このパネルは、そうした人たちの声を可視化する目的で制作しました。笑顔の裏にも見えにくい「困りごと」を抱えている人たちが自分の身の周りにもいるかもしれないと、想像しながら見てほしいと思います。

